

議員案第34号

米不足と価格高騰への緊急対策を求める意見書

上記の意見書を次のとおり提出する。

令和6年9月6日提出

小金井市議会議員

安 田 けいこ

坂 井 えつ子

水 上 洋 志

片 山 かおる

## 米不足と価格高騰への緊急対策を求める意見書

主食の米が在庫不足に陥り、店先から消え、流通業者や消費者に深刻な混乱と不安が広がっている。すべての国民が米を安心して確保できるようにすることは政治に迫られた緊急課題である。

農林水産省の発表では、今年6月末の米の民間在庫は前年比41万トン減で、過去最低となった。品不足により、米の業者間の取引価格は前年の2倍近くに高騰している。

この要因として農林水産省は、昨年の猛暑による米の出回り量の減少、コロナ後の回復・インバウンドによる需要増、小麦など海外産原料の食料品価格が高騰するなかで、米の相対的な割安感が高まり消費が伸びたことなどをあげている。南海トラフ地震臨時情報を受けた防災備蓄の増加も拍車をかけているとも伝えられている。ところが農林水産省は、「米の需給がひっ迫しているとは考えていない」、「新米が出回れば品薄感は解消される」と繰り返し、現実に店頭から米が消え、多くの国民が悲鳴をあげている事態に対し、対策は大変不十分である。

今回の事態の根本には米の需給と価格の安定に責任を持とうとしない政府の農業政策に問題がある。政府は長期にわたり農業者に減産を押し付けるとともに、米の需給と価格の安定に対する政府の責任を放棄してきたと言わざるを得ない。2021年の米の生産者価格の暴落以降、全国の米農家は低い米価と農業資材の高騰に苦しみ、離農が進む事態となったにも関わらず、政府の対策は不十分である。

その結果、かつて1,000万トン以上あった米の生産量は661万トンにまで減少し、今年必要量が上回ったために、6月末時点の米の民間在庫量が156万トンと過去最低水準となった。

現下の米不足は、安定して十分な生産量を確保し、価格保障・所得補償によって農家の収入を支えるという、多くの国々で行われている政策を採っていれば防げた事態であることは明らかである。

よって、小金井市議会は、政府に対し、米不足と価格高騰への緊急対策として、以下の点を求めるものである。

- 1 米不足の実態・実情を把握し、関係者の声を聞くこと。
- 2 政府備蓄米の活用も含め、生産者団体や流通・小売業界と協力し、店頭に必要な米が出回るよう、緊急対策を講じ、これにより生産者に価格の変動による不利益を生じさせないよう対策すること。
- 3 農家の価格保障や所得補償を抜本的に充実し、大多数の農業者が安定して生産を続けられる条件を整えること。
- 4 価格高騰により米の小売業者の仕入資金が不足している事態に対し、借入条件の優遇、別枠融資、利率の軽減等の緊急対策を講ずること。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

令和6年 月 日

小金井市議会議長 宮 下 誠

内閣総理大臣 様  
農林水産大臣 様